

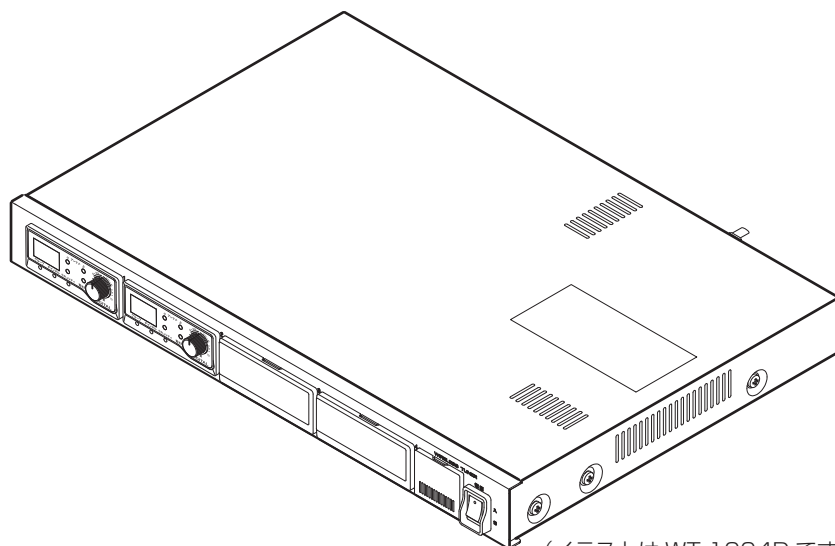
# JVC

## デジタルワイヤレスチューナー

型名 **WT-1002D** (2波)

取扱説明書

**WT-1004D** (4波)



(イラストは WT-1004D です)

お買い上げありがとうございます。

ご使用前にこの「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をお読みのうえ、正しくお使いください。

特に「安全上のご注意」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。

お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。

B5A-0494-10

## 特長

- 本機は、デジタル方式を採用した 800 MHz 帯B型デジタルワイヤレスマイクロホン受信用のデジタルワイヤレスチューナーです。
- 従来のアナログ方式に比べて、混信・妨害に強く、安定した運用が可能です。
- 音声情報の秘匿化により、盗聴に対して高いセキュリティを実現できます。
- 使用するデジタルワイヤレスマイクロホンを増やしたいとき、増設工事が簡単です。
- 雑音や混信を少なくするエリア設定が可能です。
- 設置後にもグループ/チャンネルの設定変更が可能。操作面から容易に変更できます。
- グループ/チャンネルを表示。一目で現在使用中のグループ/チャンネルがわかります。
- 別売金具によりEIA標準ラックへのマウントが可能です。
- マイク入力に接続できる-50 dBs 出力装備です。
- ワイヤレスアンテナ、ブースター用電源の給電機能付きです。
- スイッチの切り換えにより電波の強さを知ることができるエリアチェック機能付きです。
- スイッチの切り換えにより使用していないチャンネルを知ることができるチャンネルサーチ機能付きです。

## この取扱説明書の見かた

### ■商品名の表記について

- 本文中では、デジタルワイヤレスチューナー、デジタルワイヤレスマイクロホン、デジタルワイヤレスチューナーユニットの“デジタル”を省略して記載しています。

### ■本文中の記号の見かた

- ご注意： 操作上の注意が書かれています。
- メモ： 機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。
- ☞ 参考ページや参照項目を示しています。

### ■本書の記載内容について

- 本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部、または全部を弊社に無断で転載、複製などを行うことは禁じられています。
- 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では™、®、©などのマークは省略してあります。
- 本書に記載されたデザイン、仕様、その他の内容については、改善のため予告なく変更することがあります。

## もくじ

### はじめに

特長.....	2
正しくお使いいただくためのご注意.....	3
各部の名称とはたらき.....	4
前面.....	4
背面.....	5
システム構成図.....	6

### 設置

設置・接続・設定の流れ.....	7
本機の設置.....	8
ラックに組み込んで使用する.....	8
卓上で使用する.....	8
ワイヤレスチューナーユニット (WT-UD1003D) の増設.....	9
ワイヤレスチューナーユニットの取り付けかた.....	9
ワイヤレスチューナーユニットの取り出しかた.....	9

### 接続

基本システム.....	10
応用システム (8 波).....	11
応用システム (15 波).....	12

### 設定

グループとチャンネルの設定.....	13
動作モード (チャンネル数選択) を設定する.....	13
グループ/チャンネルを設定する.....	13
セキュリティの設定.....	15
セキュリティ ID を登録する.....	15
セキュリティをあり/なしにする.....	16
サブグループの設定.....	17
グループ種別の設定.....	18
エリアの設定.....	20
エリアを選択する.....	20
近接使用や混信がある場合.....	21
エリアチェックとチャンネルサーチ.....	22
アナログワイヤレスマイクシステムと併用.....	23
グループ/チャンネルの設定一覧表.....	24

### その他

こんなときは.....	25
保証とアフターサービスについて.....	26
仕様.....	27

## 正しくお使いいただくための ご注意

### 保管および使用場所

- 次のような場所に置かない  
誤動作や故障の原因となります。
  - ・ 許容動作温度 (0℃ ~ 40℃) 範囲外の暑いところ  
や寒いところ
  - ・ 許容動作湿度 (30% RH ~ 80%RH) 範囲外の湿  
気の多いところ (結露なきこと)
  - ・ 変圧器やモーターなど強い磁気を発生するところ
  - ・ トランシーバーや携帯電話など電波を発生する機器  
の近く
  - ・ ほこりや砂の多いところ
  - ・ 振動の激しいところ
  - ・ 窓ぎわなど水滴の発生しやすいところ
  - ・ 厨房など蒸気や油分の多いところ
  - ・ 放射線や X 線、および腐食性ガスの発生するところ

### 取り扱いについて

- 通風孔をふさがない  
通風孔をふさぐと、内部の熱が逃げないので火災の原因  
となります。本機を横倒し、逆さま、あお向けの状態で  
ご使用しないでください。
- 本機の上にものを置かない  
テレビモニターのような重いものや、本機からはみ出る  
ような大きなものを置くとバランスが崩れて倒れたり、  
落ちたりしてけがの原因になることがあります。
- 本機の上に乗らない、ぶら下がらない  
倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあり  
ます。特に小さいお子様には注意してください。
- 本機の上に水の入ったもの (花瓶、植木鉢、コップ、化  
粧品、薬品など) を置かない  
機器の内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。
- 内部にものを入れない  
通風孔などから、金属類や燃えやすいものなどが入れる  
と火災や感電の原因となります。

### 移動について

- 移動するときは接続コード類をはずす  
移動するときは、電源を切り、必ず電源プラグをコンセ  
ントから抜いてください。コードが傷つき、火災や感電  
の原因となることがあります。

### お手入れについて

- お手入れは、電源を切ってから行なってください。
- 本機は柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジ  
ンでふくと、表面がとけたり、くもったりします。汚れ  
がひどいときは、水でうすめた中性洗剤を布につけてふ  
き、あとでからぶきしてください。

### 省エネについて

- 長時間使用しないときは、安全および節電のため、シス  
テムの電源を切ってください。

### 電源コードについて

- 電源コードの上に重いものを乗せたり、コードを本機の  
下敷きにしなさい。  
コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。

### アンテナの設置について

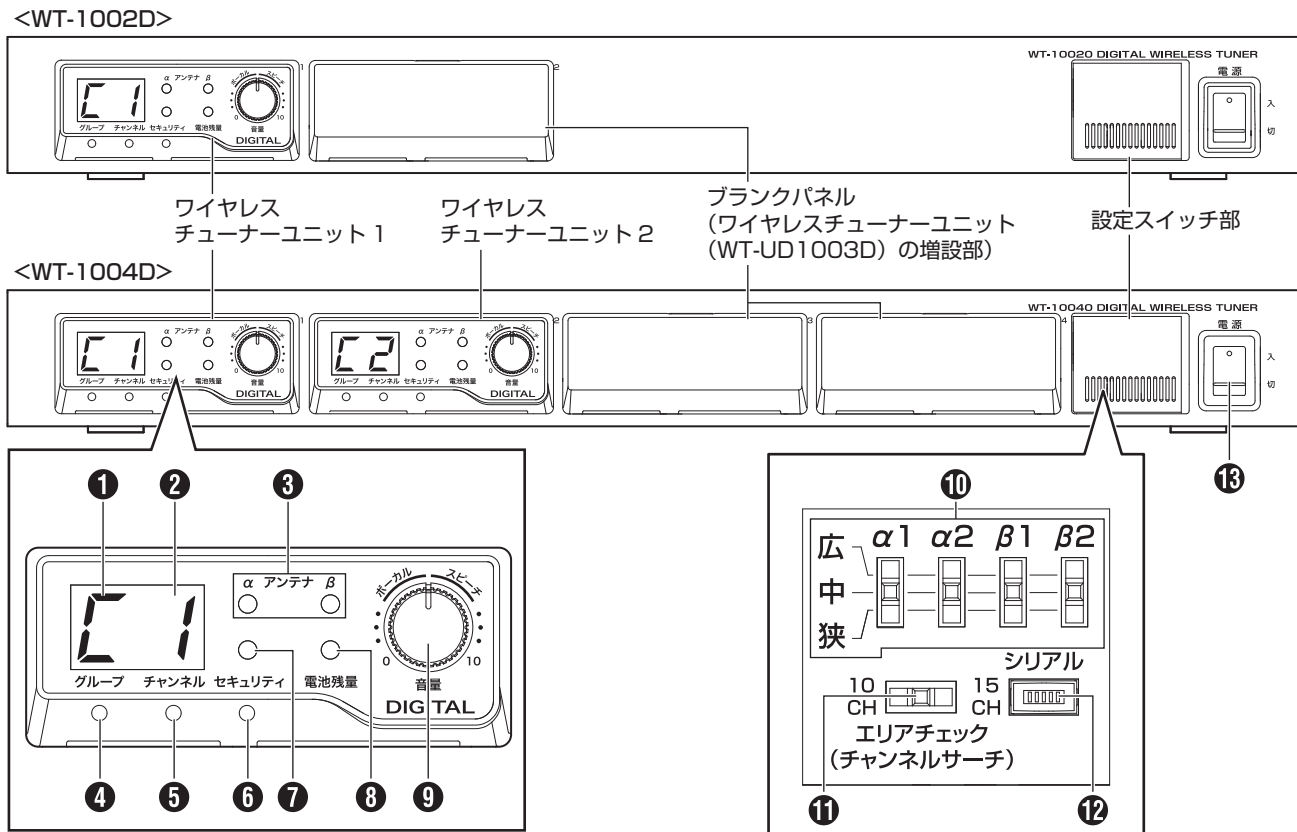
- ワイヤレスアンテナの間隔は、2 m ~ 20 m 以内にし  
てください。
- ワイヤレスアンテナは、ワイヤレスマイクとの距離が 3  
m 以上はなれるように設置してください。3 m 以内に  
近づくと、使用していないチャンネルに飛び込みや混信  
などが発生することがあります。

### その他

- ワイヤレスチューナーユニット (WT-UD1003D) の  
組み込みは本機の電源を切ってから行なってください。  
感電の原因となることがあります。

# 各部の名称とはたらき

## 前面



- ① [グループ] グループ表示灯**  
グループ番号を表示します。(出荷時設定：C)
- ② [チャンネル] チャンネル表示灯**  
受信するチャンネル番号を表示します。  
(出荷時設定：ワイヤレスチューナーユニット 1=1、  
ワイヤレスチューナーユニット 2=2)
- ③ [アンテナ] 受信ランプαβ**  
受信状態を表示します。

受信ランプ	受信の状態
緑	正しく受信している
オレンジ	電波が弱い、妨害電波がある
消灯	受信していない

- ④ グループ設定ボタン**  
受信するグループを設定します。使用するワイヤレスマイクロホンと同じグループに合わせてください。  
(☞ 13 ページ)  
長押しすることでグループ種別を設定します。アナログワイヤレスマイクシステムと併用する場合にご使用ください。  
(☞ 23 ページ)
- ⑤ チャンネル設定ボタン**  
受信するチャンネルを設定します。使用するワイヤレスマイクロホンと同じチャンネルに合わせてください。  
(☞ 13 ページ)  
長押しすることでサブグループを設定します。  
(☞ 17 ページ)

- ⑥ セキュリティ設定ボタン**  
セキュリティ ID の登録とセキュリティの設定をします。  
(☞ 15 ページ)
  - ⑦ [セキュリティ] セキュリティランプ**  
セキュリティ設定が「あり」のとき緑色に点灯します。  
(☞ 15 ページ)
  - ⑧ [電池残量] 電池残量ランプ**  
受信すると点灯して電池残量を表示します。電源ランプと電池の状態の関係は下表のとおりです。
- | 電池残量ランプ | 電池の状態      |
|---------|------------|
| 緑       | 使用可 (充電不要) |
| オレンジ    | 使用可        |
| 赤       | 交換または充電が必要 |

- ⑨ [音量] 音量つまみ**  
使用するワイヤレスマイクロホンごとの音量を調節します。会議室などでお使いになるときは“スピーチ”、歌を歌うなど大きな声でお使いになるときは“ボーカル”の範囲に設定すると、歪の少ない音量になります。  
(出荷時設定：0)
- ⑩ [広 / 中 / 狭 / α 1 / α 2 / β 1 / β 2] エリア設定スイッチ**  
混信や妨害電波等がある場合に使用します。ワイヤレスアンテナのエリア設定スイッチと併せてご使用いただくと、より効果的です。(☞ 20 ページ)  
(出荷時設定：α 1、α 2、β 1、β 2=広)

## 11 [10ch / エリアチェック / 15ch] 動作モード設定スイッチ

動作モード設定スイッチを「10ch」または「15ch」にすると通常のワイヤレスチューナーとして動作します。「10ch」、「15ch」はチャンネル数選択の設定を表します。(※ 13 ページ)

動作モード設定スイッチを「エリアチェック」にすると、ワイヤレスマイクからの電波の強さを表示するエリアチェックや空いているチャンネルを検索するチャンネルサーチの機能を使用できます。(※ 20 ページ)

(出荷時設定：10ch)

## 12 [シリアル] シリアル端子

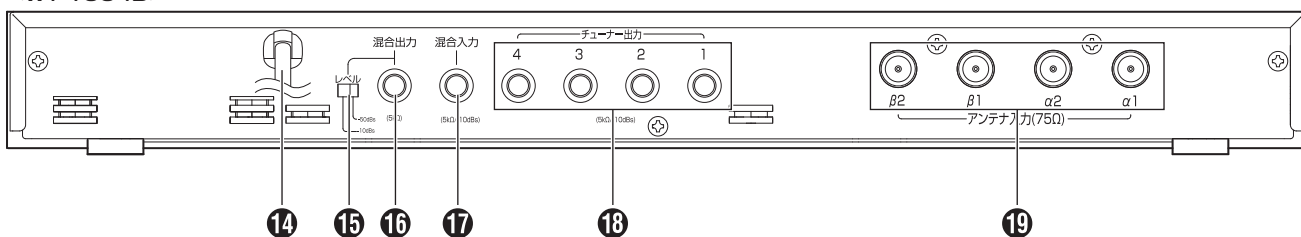
メンテナンスに使用します。通常は使用しないでください。

## 13 [電源] 電源スイッチ

ワイヤレスチューナーの電源を入/切します。

## 背面

<WT-1004D>



## 14 電源コード

商用 AC 100 V 電源に接続します。

## 15 [レベル] レベル切換スイッチ

混合出力端子 16 の音量レベルの切り換えをします。

(-50 dBs / -10 dBs)

ライン入力に接続するときは、“-10dBs”

マイク入力に接続するときは、“-50dBs”

に切り換えてください。

(出荷時設定：-10dBs)

メモ：

- チューナー音声出力 1 ~ 4 端子 18 のレベルの切り換えはできません。

## 16 [混合出力] 混合出力端子 (チューナー出力)

( $\phi 6.3$  複式フォンジャック、-10 dBs / -50 dBs、5 k $\Omega$  不平衡)

各ワイヤレスチューナーユニットの音声信号と、混合入力端子 17 に接続されたワイヤレスチューナーの音声信号をすべて混合して出力します。

コードは、 $\phi 6.3$  単頭フォンプラグ付きコードをご使用ください。

## 17 [混合入力] 混合入力端子

( $\phi 6.3$  複式フォンジャック、-10 dBs、5 k $\Omega$  不平衡)

増設したワイヤレスチューナーの混合出力を接続する端子です。ワイヤレスチューナー 2 台の音声を混合して出力するときにご使用ください。

コードは、 $\phi 6.3$  単頭フォンプラグ付きコードをご使用ください。

## 18 [チューナー出力] チューナー音声出力 1 ~ 4 端子

( $\phi 6.3$  複式フォンジャック、-10 dBs、5 k $\Omega$  不平衡)

各ワイヤレスチューナーユニットの単独出力端子です。

コードは、 $\phi 6.3$  単頭フォンプラグ付きコードをご使用ください。

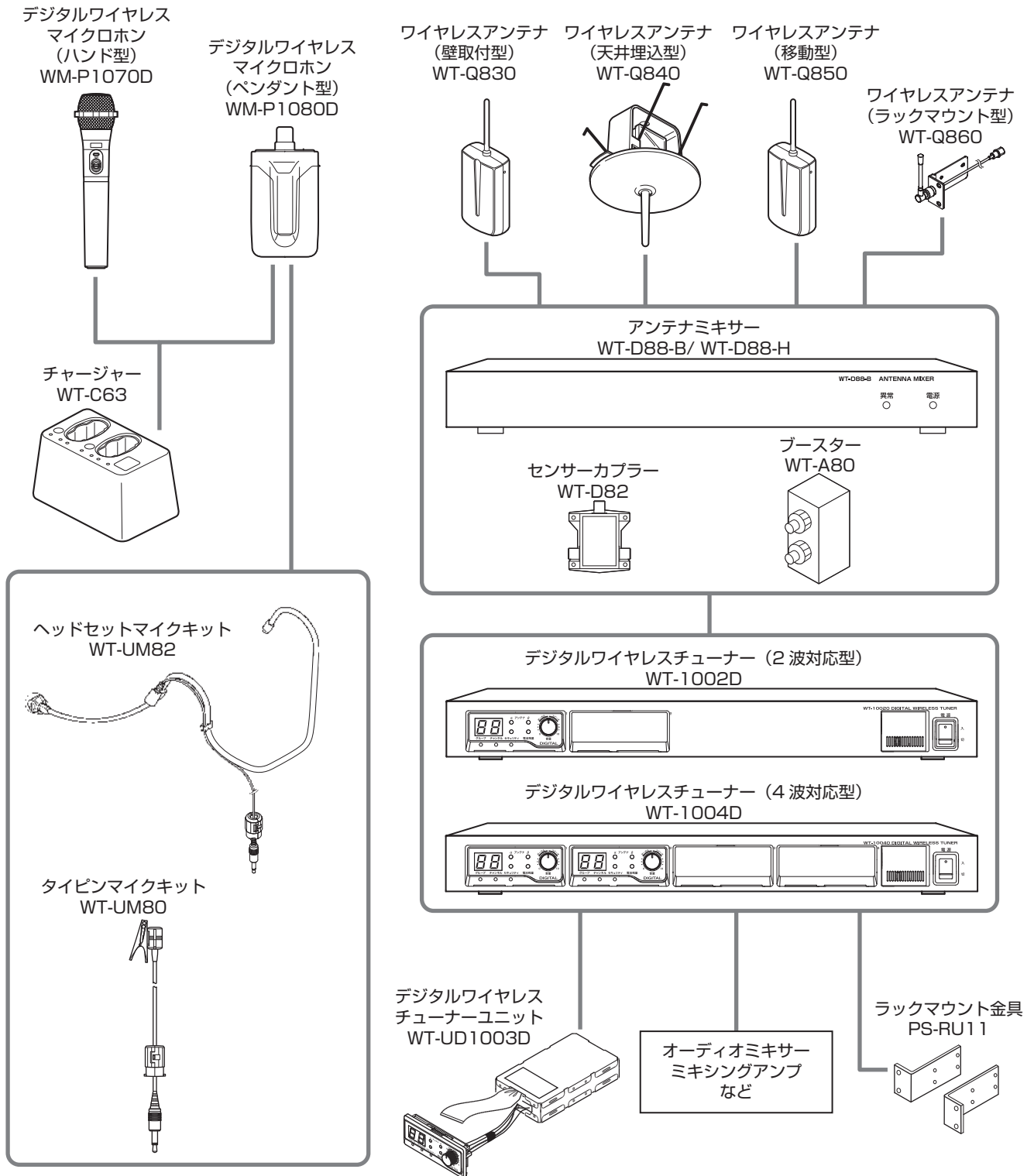
- WT-1002D には、チューナー音声出力 3、4 端子はありません。

## 19 [アンテナ入力 (75 $\Omega$ )] アンテナ $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ 、 $\beta 1$ 、 $\beta 2$ 入力端子 (75 $\Omega$ F 型コネクタ)

ワイヤレスアンテナ (WT-Q830 など) を接続します。

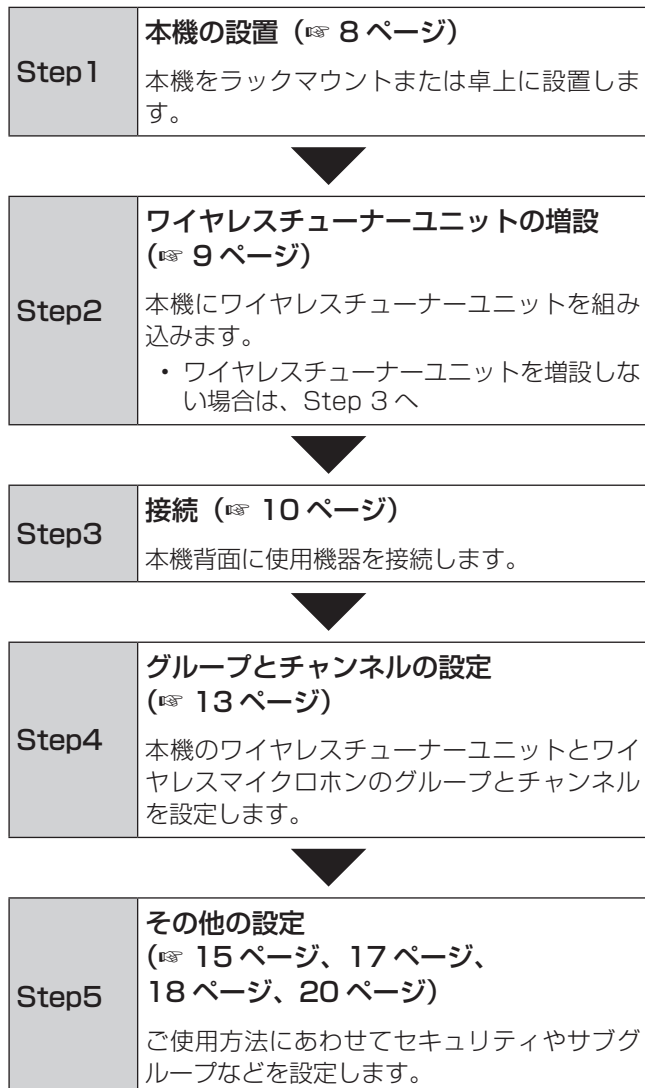
アンテナケーブルには、伝送損失の少ない“5C-FB”をご使用ください。

# システム構成図



## 設置・接続・設定の流れ

下記手順で設置・接続・設定を行なってください。  
接続は使用機器の電源を切ってから行なってください。





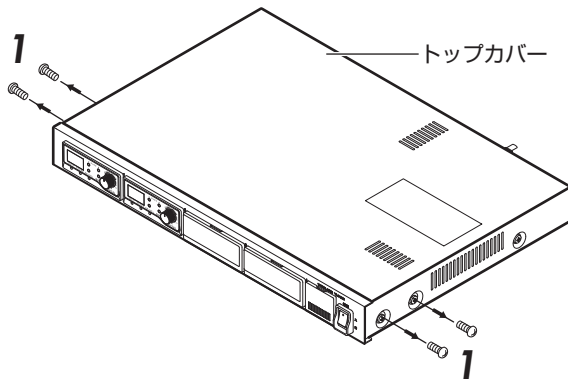
## 本機の設置

本機は、ラック組み込みまたは卓上で使用できます。

### ラックに組み込んで使用する

別売のラックマウント金具（PS-RU11）が必要です。  
ご用意ください。

#### 1 本機トップカバー両側のネジ（M4 × 8 mm） 2本をはさず

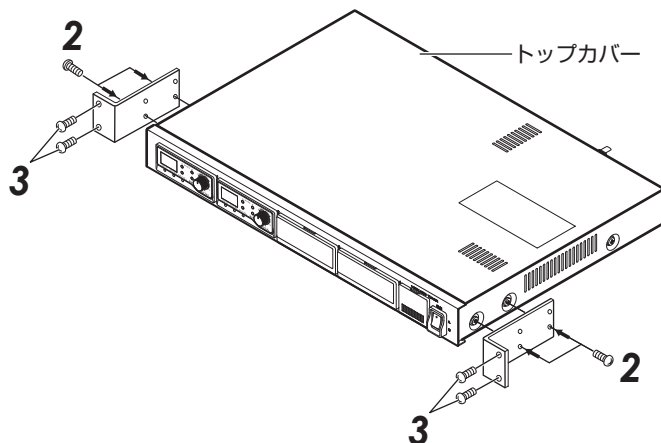


#### 2 ラックマウント金具に添付のネジ（M4 × 10 mm）4本で金具ごとトップカバーを共締めして固定する

ご注意：

- ラックマウント金具は、必ず添付のネジで取り付けてください。添付のネジ以外の長いネジや短いネジを使用すると、火災・感電や落下の原因となります。

#### 3 ラックマウント金具に添付のネジ（M5 × 12 mm）4本でラックに固定する

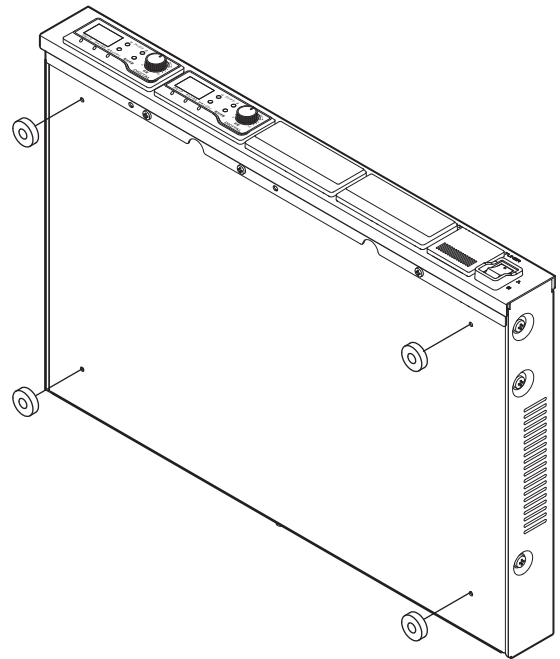


### 卓上で使用する

本機に添付のフット（4個）をシャーシ裏面の丸穴を貼り付け位置のめやすにして貼り付けてください。

ご注意：

- ラックで使用する以外は、必ず本機添付のフットを貼り付けてからご使用ください。  
机などを傷つける恐れがあります。
- 本機は、必ず安定した場所に設置してください。
- 本機は、ラジオ、テレビ、コンピューター、アンプなどの側から1 m以上はなして設置してください。





# ワイヤレスチューナーユニット (WT-UD1003D) の増設

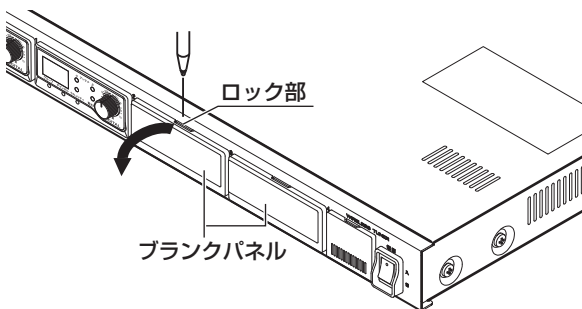
ご注意：

- 作業は技術と経験が必要です。必ず販売店の方にご依頼ください。
- 作業前には必ず電源コードをコンセントから抜いてください。
- 静電気は人体や衣類にも帯電しています。作業をはじめる前に金属物（ラックなど）に触れるなどして静電気を逃がしてください。

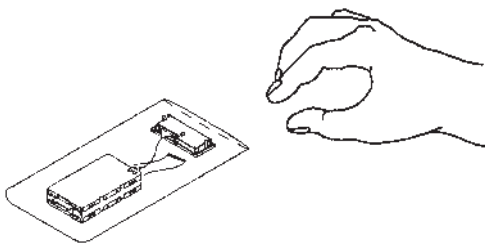
## ワイヤレスチューナーユニットの取り付けかた

### 1 ブランクパネルをはずす

ペンなどの先端の細いものでロック部を押しながら、軽く手前に引きます。

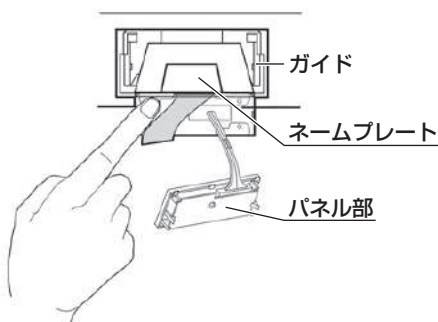


### 2 増設するワイヤレスチューナーユニット (WT-UD1003D) を梱包から取り出す



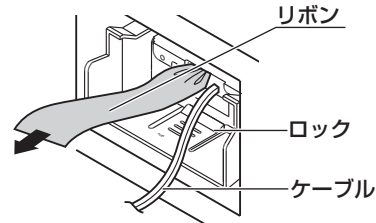
### 3 ワイヤレスチューナーユニットを挿入する

ネームプレートを上にしてガイドに挿入します。ガイドのロックがかかるまで押し込んでください。



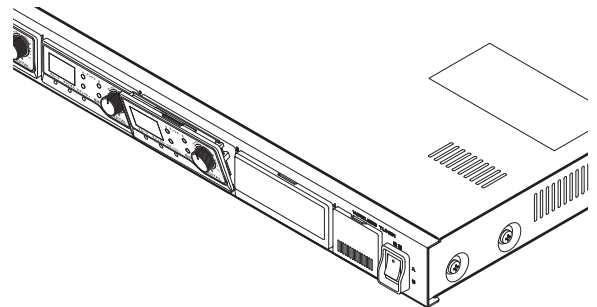
### 4 挿入状態を確認する

リボンを引いてワイヤレスチューナーユニットがロックされていることを確認します。

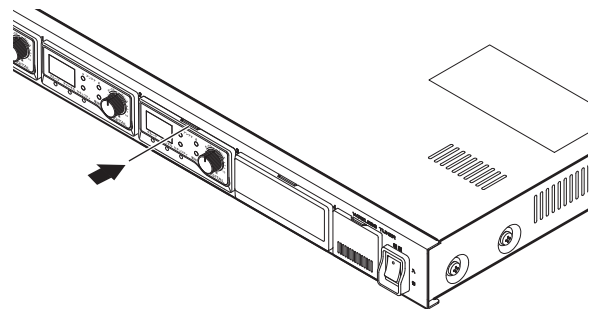


### 5 パネル部を取り付ける

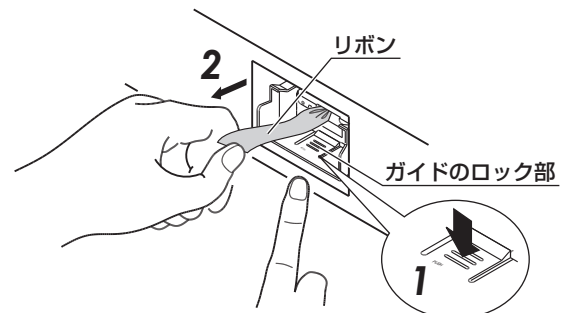
① ケーブルとリボンを挟まないようにパネル部をはめ込みます。



② パネル上部のロックがかかるまで押し込んでください。



## ワイヤレスチューナーユニットの取り出しかた



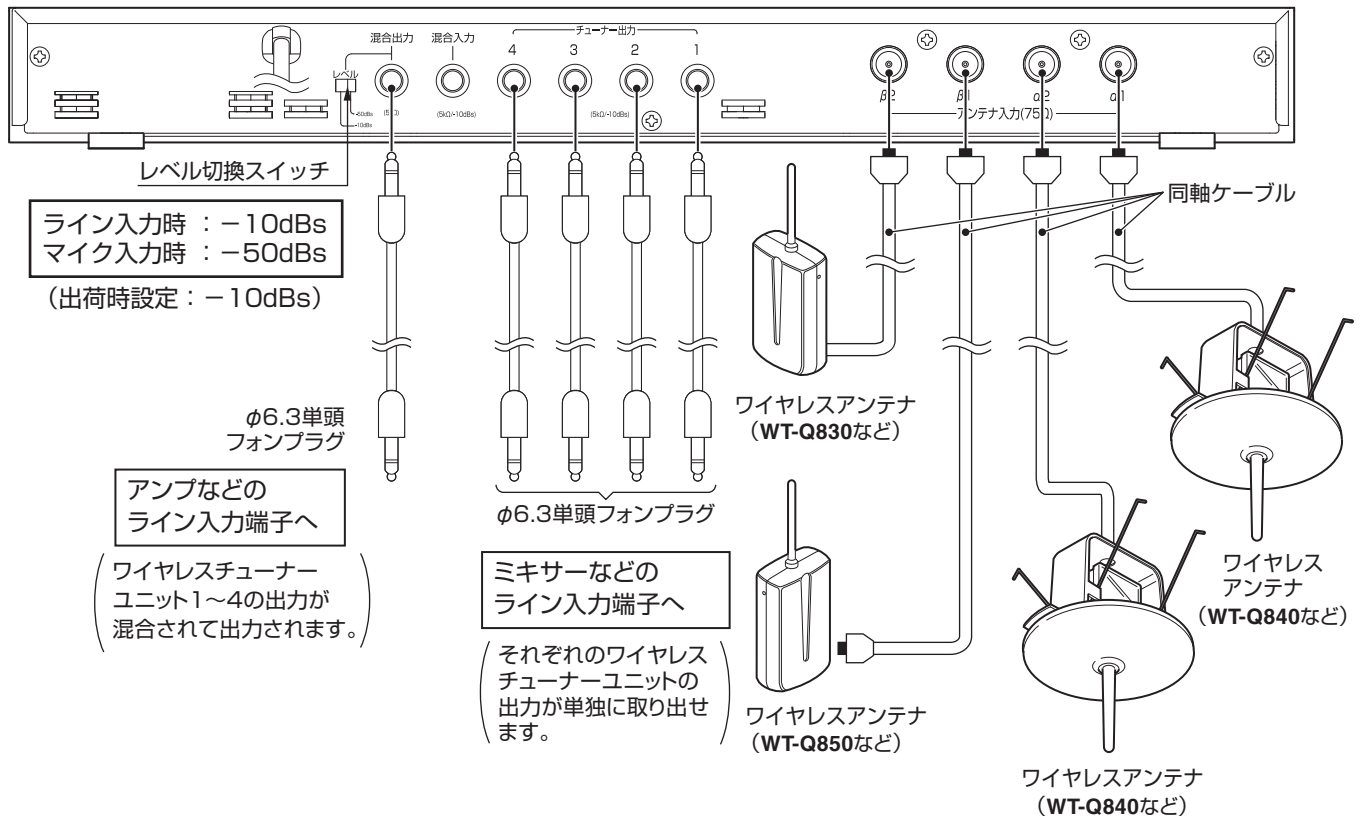
1 ガイドのロック部を下に押しながら、リボンを引っ張る

2 ワイヤレスチューナーユニットを取り出す

※ パネル部は引っ張らないでください。

## 基本システム

図は最大 4 波受信可能な接続例です。(WT-1004D 1 台、ワイヤレスチューナーユニット 2 台増設済み)



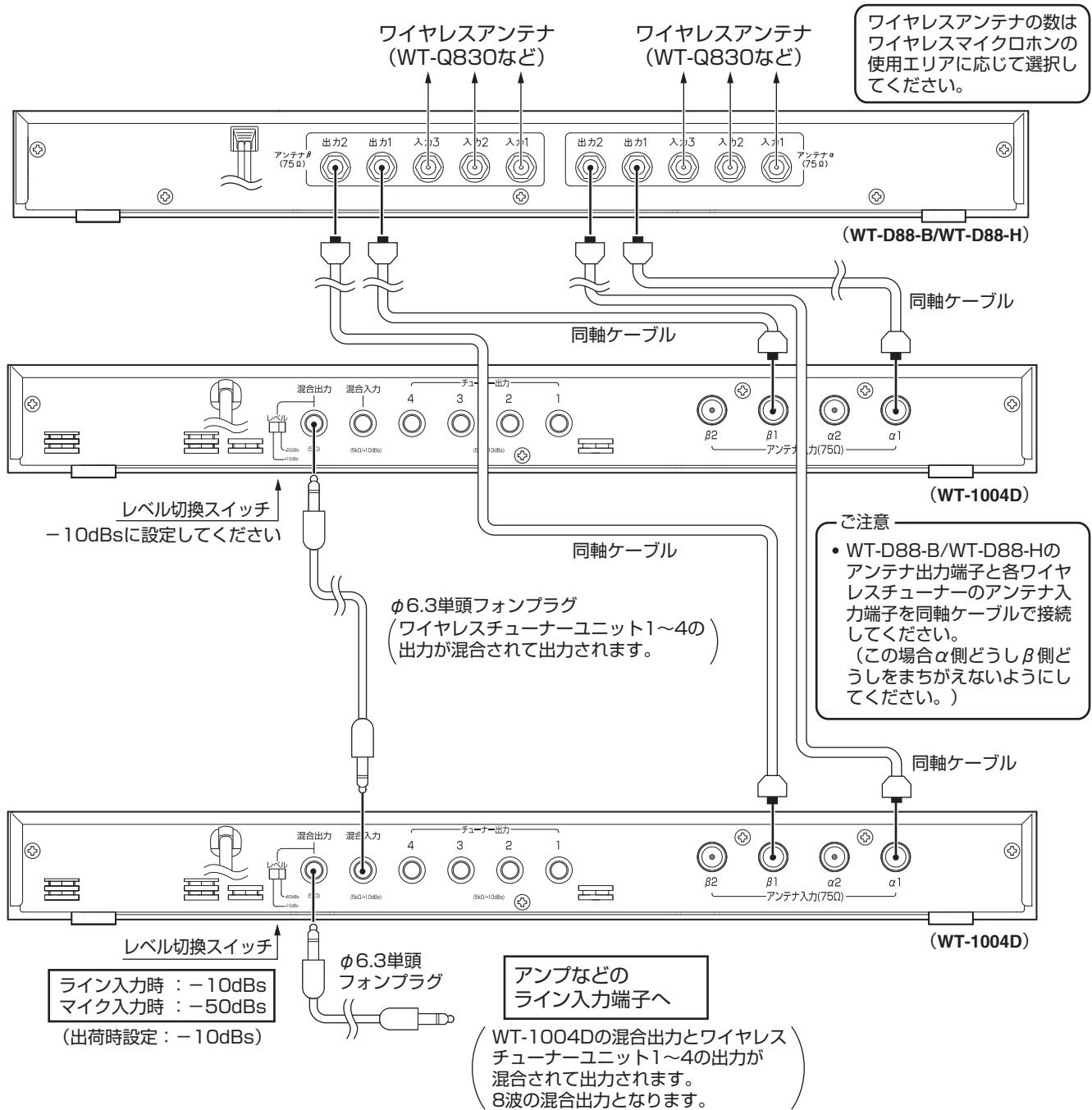
### ■ 同軸ケーブルの接続について

<p>● 同軸ケーブルを 60m 以内で接続する場合</p>	
<p>60 m以内</p> <p>ワイヤレスアンテナ (WT-Q830など)</p> <p>アンテナミキサー WT-D88-B/WT-D88-H</p> <p>ワイヤレスチューナー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同軸ケーブルは 5C-FB をお使いください。</li> <li>アンテナミキサー (WT-D88-B/WT-D88-H) の有無にかかわらず、ワイヤレスアンテナからワイヤレスチューナーまでの長さは、60 m 以内で接続してください。</li> <li>設置方法については、それぞれのワイヤレスアンテナの取扱説明書をご参照ください。</li> </ul>
<p>● 同軸ケーブルを 60m 以上で接続する場合</p>	
<p>60 m以内</p> <p>60 m以内</p> <p>ワイヤレスアンテナ (WT-Q830など)</p> <p>ブースター WT-A80</p> <p>ワイヤレスチューナー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同軸ケーブルは 5C-FB をお使いください。</li> <li>60 m 以上になる場合は、ブースター (WT-A80) を使用します。</li> <li>ブースター (WT-A80) は 2 台まで接続できます。</li> <li>設置の方法については、WT-A80 の設置説明書をご参照ください。</li> </ul>

# 応用システム (8波)

図は最大 8 波受信可能な接続例です。

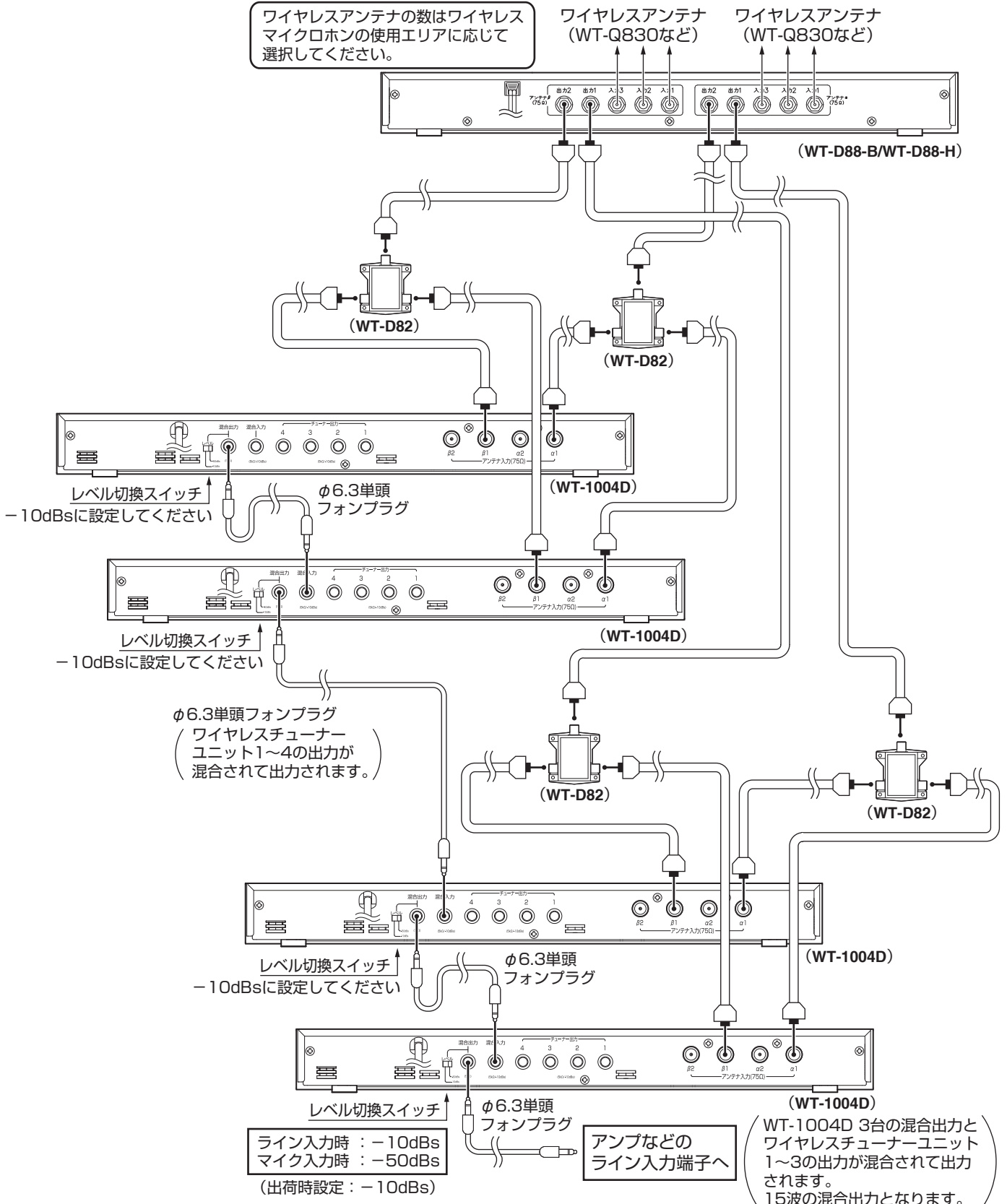
(WT-1004D 2台、ワイヤレスチューナーユニット各 2 台増設済みの接続例です。アンテナミキサー WT-D88-B/WT-D88-H が別途必要です。)



## 応用システム (15 波)

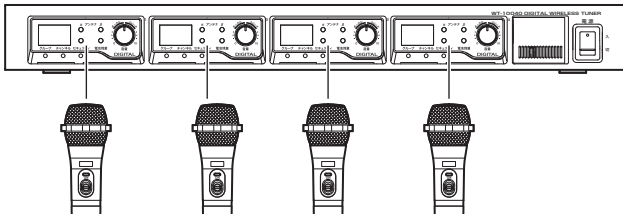
図は最大 15 波受信可能な接続例です。

(WT-1004D 4 台、3 台はワイヤレスチューナーユニット各 2 台増設済み、1 台はワイヤレスチューナーユニット 1 台増設済みの接続例です。アンテナミキサー WT-D88-B/WT-D88-H 1 台、センサーカプラー WT-D82 4 台が別途必要です。)



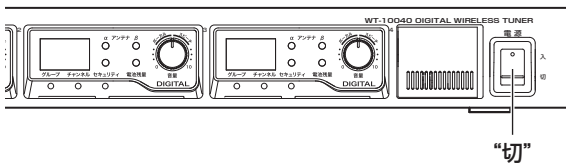
## グループとチャンネルの設定

- はじめに、ワイヤレスアンテナやケーブルが接続されていることを確認してください。
- ワイヤレスマイクロホンをご用意ください。
- 1つのワイヤレスチューナーユニットにつきワイヤレスマイクロホン1本の対応となっています。



### 動作モード（チャンネル数選択）を設定する

#### 1 本機の電源スイッチを“切”る

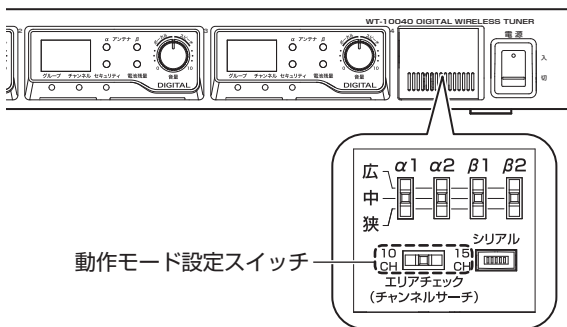


#### 2 設定スイッチ部のカバーを開ける

#### 3 動作モード設定スイッチでチャンネル数選択を設定する

ワイヤレスマイクロホンを1～10本で使用する場合は「10ch」、11～15本で使用する場合は「15ch」に設定します。

ワイヤレスマイクロホンと本機のチャンネル数選択の設定を同じにしてください。ワイヤレスマイクロホンのチャンネル数選択の設定は、ワイヤレスマイクロホンの取扱説明書を参照してください。



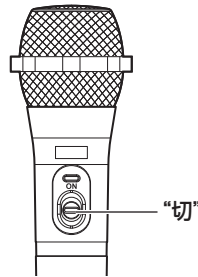
#### ご注意：

- チャンネル数選択の設定が違うワイヤレスマイクロホンは、グループとチャンネルの設定が同一であっても受信できません。
- 「15ch」は「10ch」に比べて音質が低下します。
- チャンネル数選択の設定を変更する場合は、電源を一度入れなおしてください。

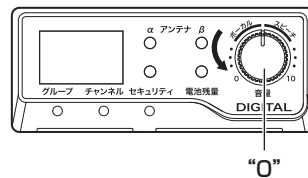
## グループ／チャンネルを設定する

以下は、ワイヤレスチューナー WT-1004D（ワイヤレスチューナーユニット（WT-UD1003D）2台増設済み）に、Cグループのチャンネルを設定する例です。

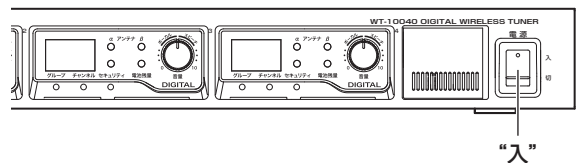
#### 1 ワイヤレスマイクロホンの電源を“切”る



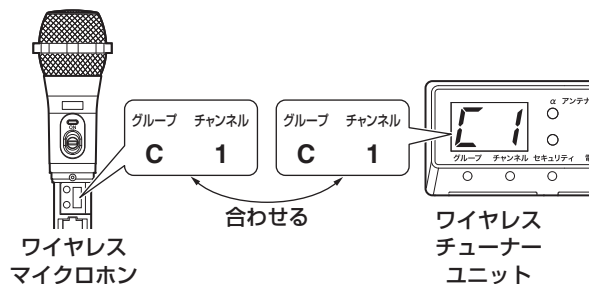
#### 2 音量つまみを“0”に合わせる



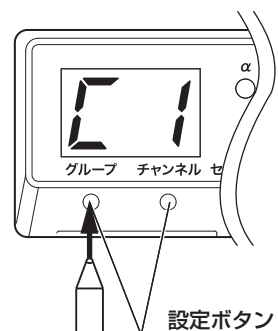
#### 3 ワイヤレスチューナーの電源を“入”れる



#### 4. ワイヤレスマイクロホンとワイヤレスチューナーユニットのグループ／チャンネルを合わせる



ボールペンなどの先端で各設定ボタンを押してください。ワイヤレスマイクロホンのグループ／チャンネル設定は、ワイヤレスマイクロホンの取扱説明書をご覧ください。



※ グループ／チャンネルの数字は設定ボタンを1回押すごとに数字が順送りされます。

次のページにつづく

# グループとチャンネルの設定 (つづき)

<グループ/チャンネル組み合わせ表>

呼称	チャンネル	1	2	3	4	5	6
	グループ						
B	A	BA1	BA2	BA3	BA4	BA5	—
	B	BB1	BB2	BB3	BB4	BB5	—
	C	BC1	BC2	BC3	BC4	BC5	—
	D	BD1	BD2	BD3	BD4	BD5	—
	E	BE1	BE2	BE3	BE4	BE5	—
	F	BF1	BF2	BF3	BF4	BF5	—

※ “—” 部の設定は使用できません。  
(工場出荷時:「BC1」)

グループ表示灯では下表のように表示されます。

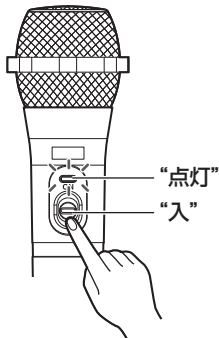
グループ	グループ表示灯	グループ	グループ表示灯
A	A	D	d
B	b	E	E
C	C	F	F

ご注意:

- グループ設定ボタンを約2秒以上長押しするとグループ種別の設定が変更になります。(P.18 ページ)
- チャンネル設定ボタンを約2秒以上長押しすると、サブグループの設定となります。(P.17 ページ)

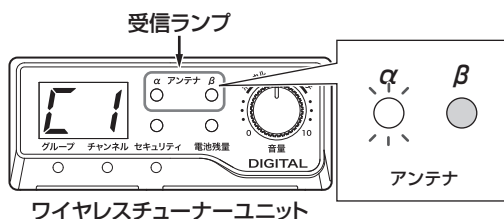
## 5 ワイヤレスマイクロホンの電源を“入”れる

ワイヤレスマイクロホンの電源ランプが点灯します。



## 6 受信ランプを確認する

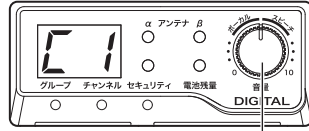
表示パネルの受信ランプαかβどちらか一方が点灯します。点灯しない場合は、ワイヤレスアンテナの接続とグループ/チャンネルの設定を確認してください。



## 7 手順 1 ~ 6 を各ワイヤレスチューナーユニットで同様に行う

## 8 音量を調節する

各ワイヤレスチューナーユニットで使用するワイヤレスマイクロホンの音量を、音量つまみで調節します。



音量つまみ

### ■ 同一場所で、ワイヤレスマイクロホンを同時に2本以上使用する場合

同じグループで異なるチャンネルに設定してください。6本以上使用する場合は、同時使用できるグループを選択してください。

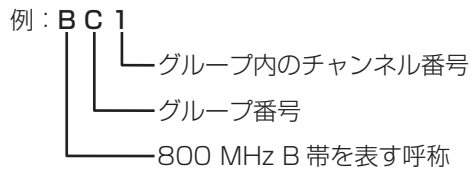
混信する場合があります。(P.24 ページ)

### ■ ご使用になるときは

- 音量の調節は、接続先のアンプやミキサーでワイヤレスマイクロホンの音量を設定してください。
- ワイヤレスチューナーユニットの音量つまみは、使用するワイヤレスマイクロホンごとの音量の調節用です。通常の使用時は、設定を動かさないでください。

メモ:

- 本文中では、グループ/チャンネルの組み合わせの表記に“B”を付けて記載しています。





## セキュリティの設定

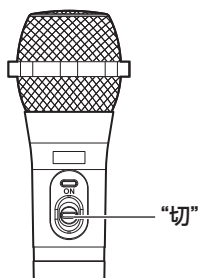
音声情報の漏えいに対するセキュリティを高める機能です。セキュリティ ID を認証登録したワイヤレスマイクだけを受信するようになります。

ご注意：

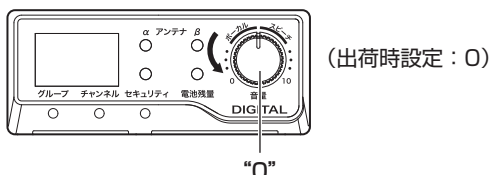
- グループ/チャンネルが同一の設定でもセキュリティ ID の認証登録がされていないワイヤレスマイクロホン、およびセキュリティあり/なしが同一に設定されていないワイヤレスマイクロホンを受信することはできません。

### セキュリティ ID を登録する

#### 1 ワイヤレスマイクロホンの電源を“切”り、電池カバーをはずす

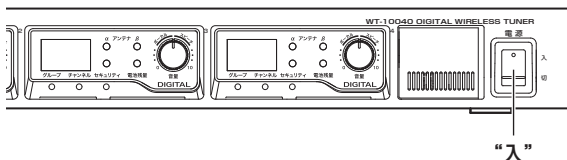


#### 2 音量つまみを“0”に合わせる

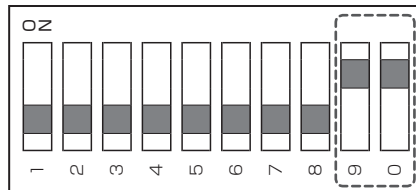


#### 3 ワイヤレスチューナーの電源を“入”れる

周波数グループ、周波数チャンネル、チャンネル数選択の設定がワイヤレスマイクロホンと同一であることを確認してください。



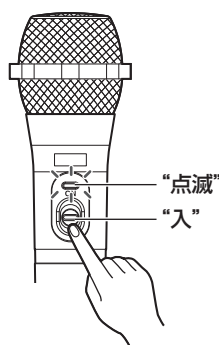
#### 4 ワイヤレスマイクロホンの設定スイッチのセキュリティ設定およびセキュリティ ID を ON にする



ワイヤレスマイクロホンの設定スイッチの設定はワイヤレスマイクロホンの取扱説明書をご覧ください。

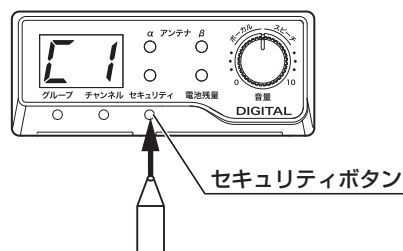
#### 5 ワイヤレスマイクロホンの電源を“入”れる

ワイヤレスマイクロホンの電源ランプが緑色に点滅します。



#### 6 セキュリティ設定ボタンを押す

ボールペンなどの先端でセキュリティ設定ボタンを押してください。セキュリティランプが点滅し、セキュリティ ID 待機状態となります。

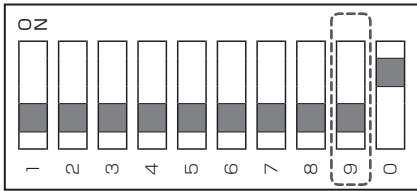


次のページにつづく

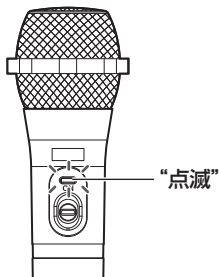


## セキュリティの設定(つづき)

### 7 ワイヤレスマイクロホンの設定スイッチのセキュリティ ID 設定を OFF にする



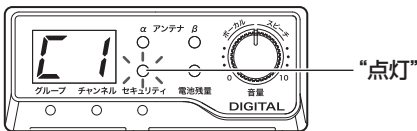
セキュリティ ID が、ワイヤレスマイクロホンからワイヤレスチューナーに30秒間送信されます。送信が終了するとワイヤレスマイクロホンの電源ランプが橙色に点滅します。



ワイヤレスチューナーはセキュリティ ID を正常受信するとセキュリティランプが緑色に点灯し、セキュリティありの状態となります。

で注意：

- ワイヤレスチューナーがセキュリティありの状態で、ワイヤレスマイクロホンからセキュリティ ID を送信し続けると、ワイヤレスチューナーは妨害波と判定し、受信ランプはオレンジ色の点灯になります。



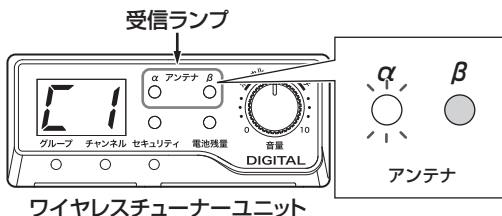
セキュリティ ID を1分間受信できない場合はセキュリティランプが消灯し、セキュリティなしの受信待機状態となります。

### 8 ワイヤレスマイクロホンの電源を“切”り、電池カバーを付ける

### 9 ワイヤレスマイクロホンの電源を“入”れる ワイヤレスマイクロホンの電源ランプが点灯します。

### 10 受信ランプを確認する

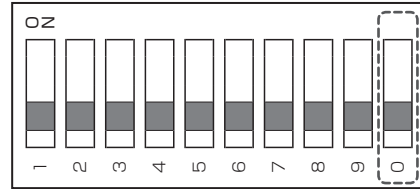
表示パネルの受信ランプαかβどちらか一方が点灯します。点灯しない場合は、ワイヤレスアンテナの接続とグループ/チャンネルの設定を確認してください。



ワイヤレスチューナーユニット

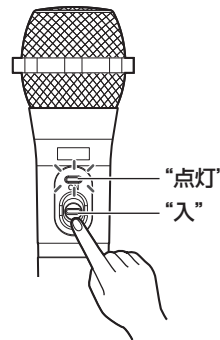
## セキュリティをあり／なしにする

### 1 ワイヤレスマイクロホンの設定スイッチのセキュリティ設定スイッチを ON または OFF に設定する

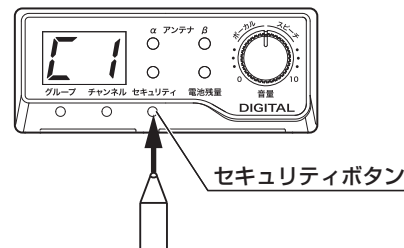


ワイヤレスマイクロホンのセキュリティ設定は、ワイヤレスマイクロホンの取扱説明書をご覧ください。

### 2 ワイヤレスマイクロホンの電源を“入”れる ワイヤレスマイクロホンの電源ランプが緑色に点灯します。



### 3 セキュリティ設定ボタンを2秒以上長押しする



セキュリティを「あり」から「なし」に変更した場合は、セキュリティランプが消灯しセキュリティが解除されます。

セキュリティを「なし」から「あり」に変更した場合は、セキュリティランプが点灯し、セキュリティ設定が有効になります。

### 4 ワイヤレスマイクロホンの電源を“切”り、電池カバーを付ける

### 5 ワイヤレスマイクロホンの電源を“入”れる ワイヤレスマイクロホンの電源ランプが点灯します。

### 6 受信ランプを確認する

表示パネルの受信ランプαかβどちらか一方が点灯します。点灯しない場合は、ワイヤレスアンテナの接続とグループ/チャンネルの設定を確認してください。

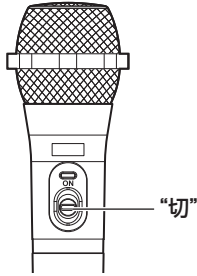
# サブグループの設定

同じグループ/チャンネルを近接したエリアで使用しても混信させたくないような場合、サブグループを設定します。

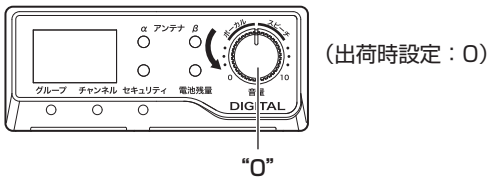
ご注意：

- グループ/チャンネルが同一の設定でもサブグループが違うワイヤレスマイクロホンを受信した場合、受信ランプは点灯しますが、音声は出力されません。

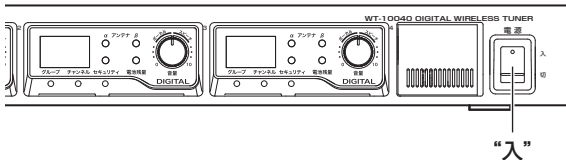
## 1 ワイヤレスマイクロホンの電源を“切”る



## 2. 音量つまみを“0”に合わせる

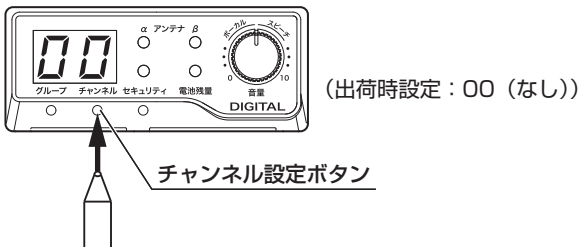


## 3 ワイヤレスチューナーの電源を“入”れる



## 4 チャンネル設定ボタンを2秒以上長押しする

ボールペンなどの先端でチャンネル設定ボタンを長押ししてください。グループ表示灯、チャンネル表示灯に現在のサブグループ番号が点滅します。



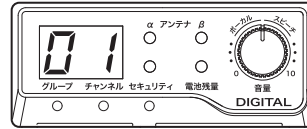
## 5 ワイヤレスマイクロホンとワイヤレスチューナーユニットのサブグループ番号を合わせる

設定例：サブグループ「1」の場合

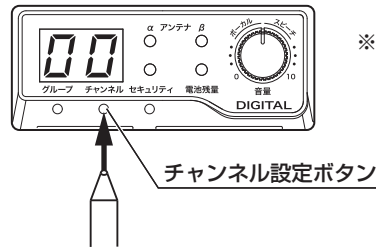
- ワイヤレスマイクロホン
  - 6  ON
  - 7  OFF

ワイヤレスマイクロホンのサブグループ設定は、ワイヤレスマイクロホンの取扱説明書をご覧ください。

- ワイヤレスチューナーユニット



選択したい番号に数字が移行したら、3秒間放置してください。サブグループが決定し、グループ、チャンネルの表示に移行します。



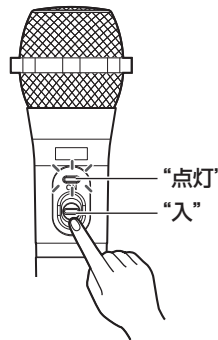
※ サブグループの数字は設定ボタンを1回押しごとに数字が順送りされます。

対応するサブグループ番号に設定したワイヤレスチューナーで音声を出力します。音声を出力する組み合わせは下表のとおりです。

ワイヤレスマイクロホン \ ワイヤレスチューナー	「00 (なし)」	「01」	「10」	「11」
「0 (なし)」	○	×	×	×
「1」	○	○	×	×
「2」	○	×	○	×
「3」	○	×	×	○

## 6 ワイヤレスマイクロホンの電源を“入”れる

ワイヤレスマイクロホンの電源ランプが点灯します。

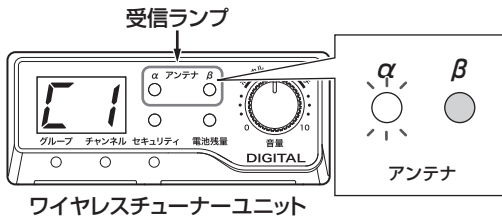


次のページにつづく

## サブグループの設定(つづき)

### 7 受信ランプを確認する

表示パネルの受信ランプαかβどちらか一方が点灯します。点灯しない場合は、ワイヤレスアンテナの接続とグループ/チャンネルの設定を確認してください。



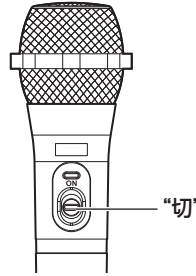
## グループ種別の設定

デジタルワイヤレスマイクシステムのみで運用、またはアナログワイヤレスマイクシステムと併用で運用するかを設定します。

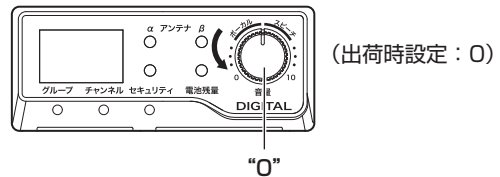
ご注意：

- 「周波数表」(P. 19 ページ) に記載されていないグループ種別の設定はできません。

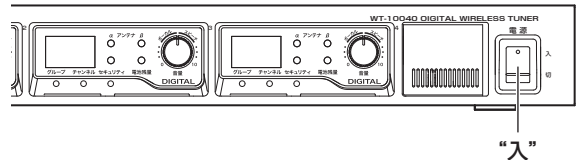
### 1 ワイヤレスマイクロホンの電源を“切”る



### 2 音量つまみを“0”に合わせる



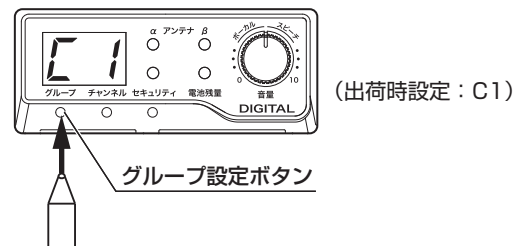
### 3 ワイヤレスチューナーの電源を“入”れる



### 4 グループ設定ボタンを2秒以上長押しする

ボールペンなどの先端でグループ設定ボタンを長押ししてください。

グループ表示灯が「デジタル」表示から「アナログと併用」表示、または「アナログと併用」表示から「デジタル」表示に移行します。



※ 「デジタル」表示が「C1」の場合は、「アナログと併用」表示の「31」に移行します。

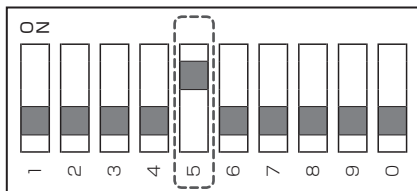
C1 ↔ 31

「デジタル」と「アナログと併用」のグループ／チャンネルの対比は下表になります。グループ種別の設定を変更したとき、同じ周波数で「デジタル」から「アナログと併用」、または「アナログと併用」から「デジタル」のグループ／チャンネルになります。

### <周波数表>

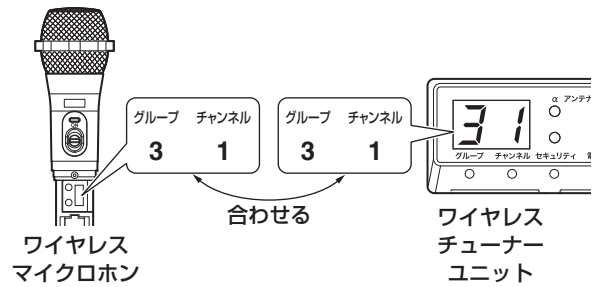
周波数 (MHz)	グループ種別	
	デジタル	アナログと併用
806.125	BF1	B11
806.250	BD1	B21
806.375	BB1	B12
806.500	BE1	B22
806.625	BC1	B31
806.750	BA1	B41
806.875	BF2	B32
807.000	BD2	B23
807.125	BB2	B13
807.250	BE2	B61
807.375	BC2	B33
807.500	BA2	B42
807.625	BF3	B51
807.750	BD3	B14
807.875	BB3	B24
808.000	BE3	B43
808.125	BC3	B52
808.250	BA3	B34
808.375	BF4	B53
808.500	BD4	B25
808.625	BB4	B35
808.750	BE4	B54
808.875	BC4	B26
809.000	BA4	B15
809.125	BF5	B44
809.250	BD5	B36
809.375	BB5	B45
809.500	BE5	B16
809.625	BC5	B55
809.750	BA5	B46

### 5 ワイヤレスマイクロホンの設定スイッチのグループ種別を ON または OFF にする



ワイヤレスマイクロホンのグループ種別の設定については、ワイヤレスマイクロホンの取扱説明書をご覧ください。

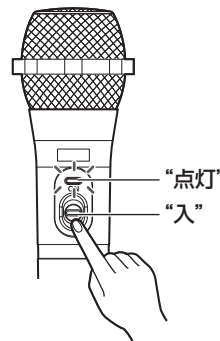
### 6 ワイヤレスマイクロホンとワイヤレスチューナーユニットのグループ／チャンネルを合わせる



グループ／チャンネルの組み合わせは「グループ／チャンネルの設定一覧表」(P. 24 ページ) をご覧ください。

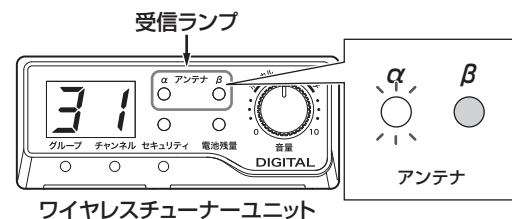
### 7 ワイヤレスマイクロホンの電源を“入”れる

ワイヤレスマイクロホンの電源ランプが点灯します。



### 8 受信ランプを確認する。

表示パネルの受信ランプ  $\alpha$  か  $\beta$  どちらか一方が点灯します。点灯しない場合は、ワイヤレスアンテナの接続とグループ／チャンネルの設定を確認してください。



ご注意：

- グループ種別を「アナログと併用」にした場合でも、本機をアナログワイヤレスマイクシステムとして使用することはできません。また、アナログワイヤレスマイクロホンを受信することはできません。

## エリアの設定

ワイヤレスマイクロホンを近接して使用する場合や外部からの混信があるときなど、“エリア設定スイッチ”を使用して混信を軽減することができます。

ワイヤレスマイクロホンから電波の強さを確認する場合は“エリアチェック”、使っていないグループ/チャンネルを探す場合は“チャンネルサーチ”をご使用ください。

### エリアを選択する

#### ■ エリア設定スイッチの使いかた

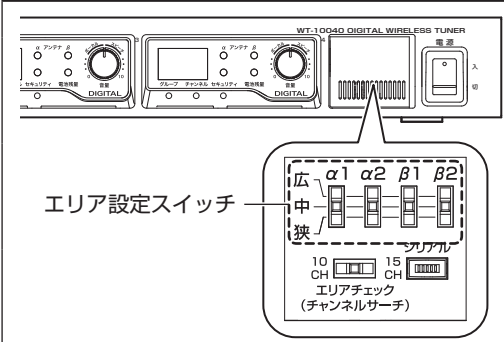
##### ● エリア設定スイッチとは

アンテナ入力端子ごとに、その感度を設定できます。近接使用時の混信や妨害電波がある場合にご使用ください。

ワイヤレスマイクロホンの使用エリアは狭くなりますが、妨害電波も受けにくくなり混信妨害を軽減することができます。

ワイヤレスアンテナ WT-Q830/WT-Q840/WT-Q850 と組み合わせて使用する場合は、ワイヤレスアンテナのエリア設定スイッチを併用することによりさらに混信妨害を軽減することができます。

<使用エリア設定表> ※ 表の値は、おおよそのめやすとして参照してください。

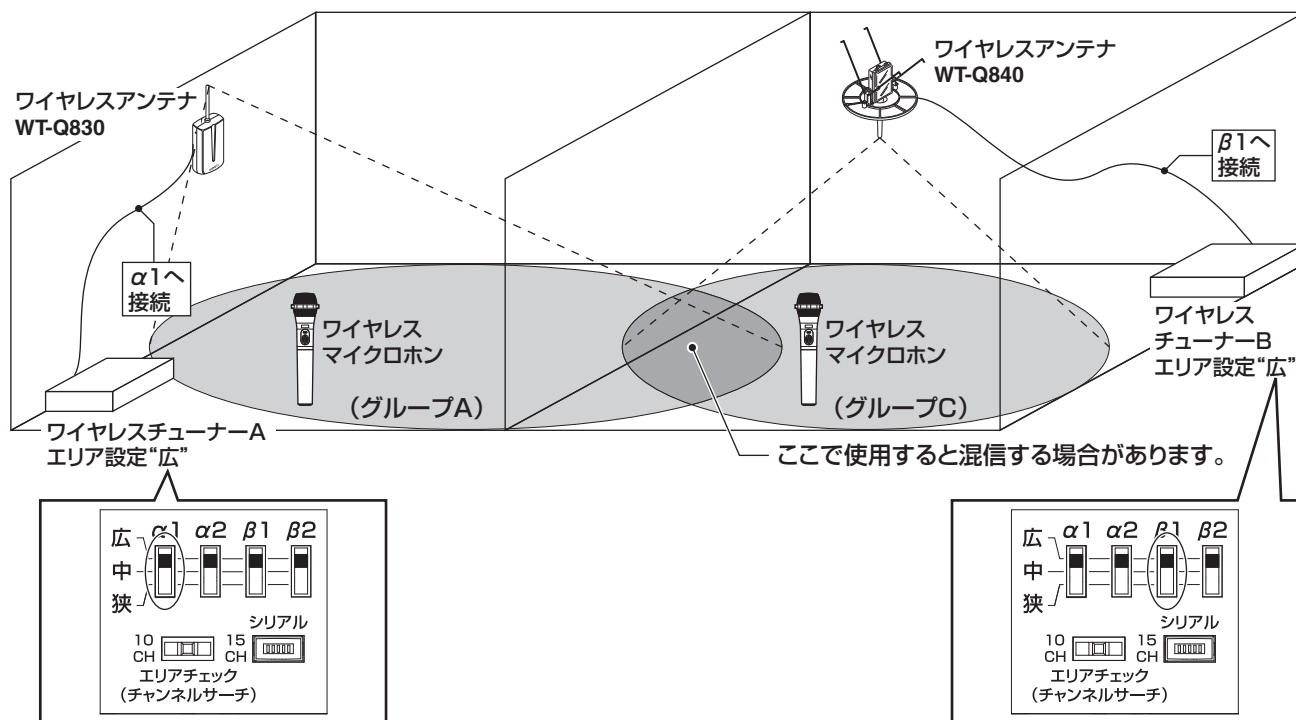
		WT-Q830/WT-Q840/WT-Q850 ワイヤレスアンテナ エリア設定スイッチ		
		広	中	狭
 <p>エリア設定スイッチ</p> <p>ワイヤレスチューナーエリア設定スイッチ</p>	広	15 m ~ 80 m	10 m ~ 40 m	5 m ~ 20 m
	中	10 m ~ 40 m	6 m ~ 25 m	3 m ~ 15 m
	狭	5 m ~ 30 m	3 m ~ 20 m	1 m ~ 10 m

メモ：

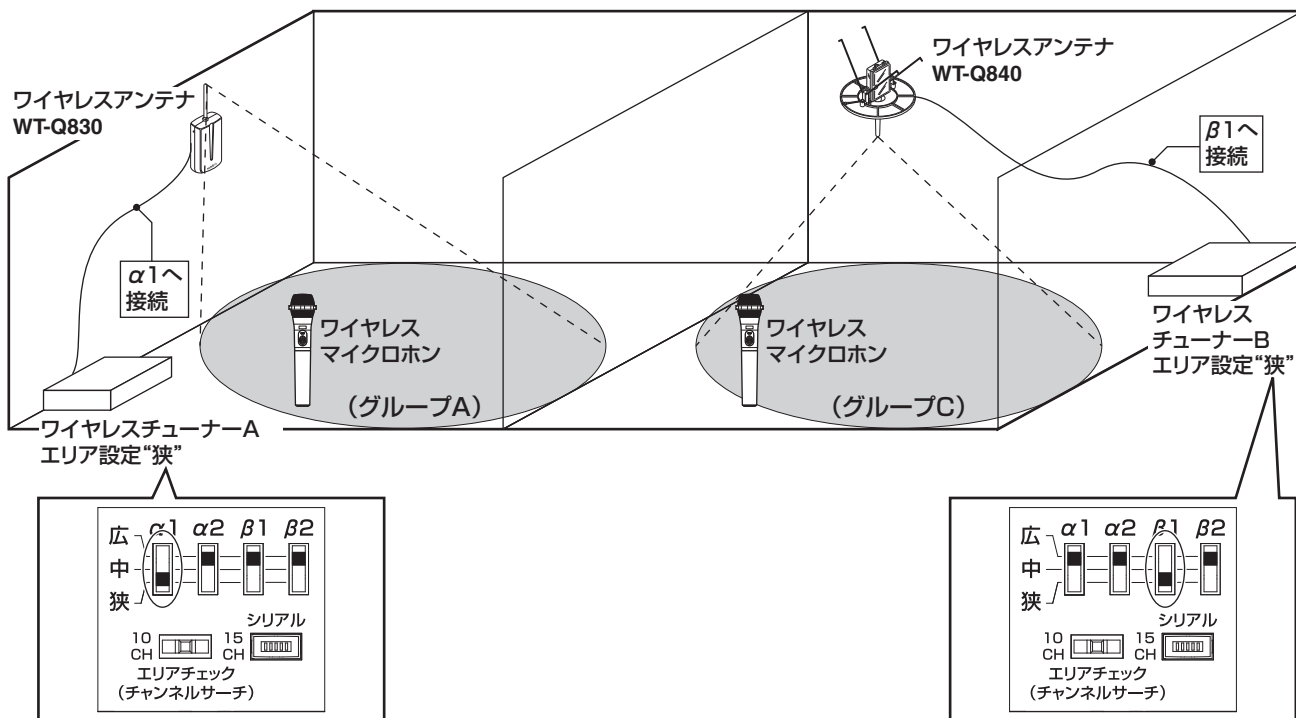
- 使用エリアについては、スイッチの設定後必ず動作確認を行い、音途切れや使用できない場所がないかを確認してください。

## 近接使用や混信がある場合

- ワイヤレスマイクロホンと同時に使用できない組み合わせのグループのワイヤレスアンテナが近い場合、混信や妨害を受けることがあります。



- ワイヤレスチューナー A およびワイヤレスチューナー B のエリア設定スイッチを“狭”に設定します。使用エリアは狭くなりますが、近接使用での混信を軽減することができます。



## エリアの設定 (つづき)

### エリアチェックとチャンネルサーチ

#### ■ エリアチェックスイッチの使いかた

##### ● エリアチェックスイッチとは

ワイヤレスアンテナを設置したとき、ワイヤレスマイクロホンからの電波をどのくらいの強さで受信しているか、確認するためのスイッチです。

動作モード設定スイッチを“エリアチェック”にすることで、各ワイヤレスチューナーユニットのグループ/チャンネルの表示が下図のようになり、電波の強さを確認することができます。

##### <受信感度表>

電波の強さ	受信できない	弱い	やや弱い	強い	十分に強い
<p>電波の強さ</p> <p>受信できない</p> <p>弱い</p> <p>やや弱い</p> <p>強い</p> <p>十分に強い</p>	→ “やや弱い” 以上の表示で安定してご使用になれます。				

メモ：

- 通常使用時の動作モード設定スイッチは、使用するチャンネル数選択の設定に合わせて「10ch」または「15ch」にしてください。ノイズなどが出力される場合があります。

#### ■ チャンネルサーチをする

##### ● チャンネルサーチとは

チャンネルサーチを開始するには、エリアチェック中にワイヤレスチューナーユニットのチャンネル設定ボタンを長押しします。スキャン開始グループが表示されたら、チャンネル設定ボタンを押してスキャンを開始します。グループ設定ボタンを押して開始グループを切り換えることもできます。

チャンネルサーチ中はワイヤレスチューナーユニットの音声は出力されません。

##### <チャンネルサーチ中表示>

サーチ中	候補があったとき (グループ、チャンネル)	候補がないとき
<p>サーチ中</p>	<p>候補があったとき (グループ、チャンネル)</p>	<p>候補がないとき</p>

候補が見つかった場合、グループ設定ボタンを長押しするとその候補がグループ/チャンネル設定に設定されます。チャンネル設定ボタンを短押しすると次の候補をサーチします。

エリアチェック中の状態へ戻るには、チャンネル設定ボタンを長押しします。

チャンネルサーチとエリアチェックを終了する場合は、電源スイッチを切り、動作モード設定スイッチを「10ch」または「15ch」にします。



# アナログワイヤレスマイクシステムと併用

本機はアナログワイヤレスマイクシステムと併用して使うことができます。

ご注意：

- 「アナログ併用時のグループ／チャンネル組み合わせ表」に記載されていない組み合わせは設定できません。
- 組み合わせ可能なワイヤレスマイクロホンとワイヤレスチューナーユニットは以下になります。  
[ワイヤレスマイクロホン]  
デジタル方式：WM-P1070D、WM-P1080D  
アナログ方式：WM-P902、WM-P970、WM-P980、WM-P772  
[ワイヤレスチューナー]  
デジタル方式：WT-1002D、WT-1004D  
アナログ方式：WT-902、WT-904  
上記以外の組み合わせは使用できません。
- グループ種別を「アナログと併用」に設定した場合でも、アナログワイヤレスマイクロホンを受信することはできません。

## 1 グループ種別を設定する

「グループ種別の設定」(P.18 ページ) の手順 1～5 を行い、ワイヤレスチューナーとワイヤレスマイクロホンを「アナログと併用」に設定してください。

## 2 グループ／チャンネルの組み合わせを選択する

アナログ併用時のグループ／チャンネルの組み合わせは下表になります。

＜アナログ併用時のグループ／チャンネル組み合わせ表＞

呼称	チャンネル						
	グループ	1	2	3	4	5	6
B	1	B11	B12	B13	B14	B15	B16
	2	B21	B22	B23	B24	B25	B26
	3	B31	B32	B33	B34	B35	B36
	4	B41	B42	B43	B44	B45	B46
	5	B51	B52	B53	B54	B55	—
	6	B61	—	—	—	—	—

※ “—” 部の設定は使用できません。

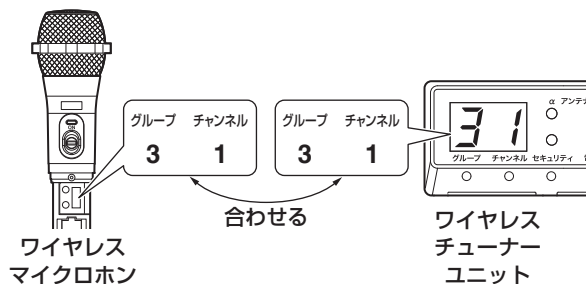
※ グループ／チャンネルの組み合わせの “B” は、800 MHz B 帯を表す呼称です。

ご注意：

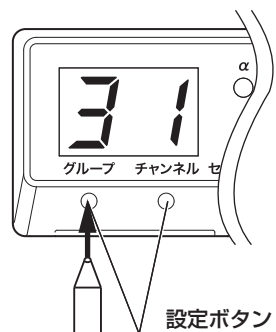
- グループを 1～6 から 1 つ選択してください。チャンネル数選択の設定が「10ch」、 「15ch」 いずれの場合も同時に使用できるワイヤレスマイクロホンは最大 6 本です。
- チャンネル数選択の設定が「10ch」の場合、デジタルワイヤレスマイクロホンは「アナログ併用時のグループ／チャンネル組み合わせ表」の ■ 部 (B11、B12、B21、B22、B31、B32、B44、B45、B52、B53) の設定は同時に使用できません。チャンネル数選択の設定が「15ch」の場合、すべてのグループ／チャンネルで使用できます。(P.24 ページ)

## 3 グループ／チャンネルを設定する

ワイヤレスマイクロホンとワイヤレスチューナーユニットのグループ／チャンネルを設定します。



ボールペンなどの先端で各設定ボタンを押してください。ワイヤレスマイクロホンのグループ／チャンネル設定は、ワイヤレスマイクロホンの取扱説明書をご覧ください。



※ グループ／チャンネルの数字は設定ボタンを 1 回押すごとに数字が順送りされます。

ご注意：

- グループ設定ボタンを約 2 秒以上長押しするとグループ種別の変更になります。(P.18 ページ)
- チャンネル設定ボタンを約 2 秒以上長押しすると、サブグループの設定となります。(P.17 ページ)

## ■ グループ／チャンネル構成例

チャンネル数選択の設定「10ch」、使用グループ「3」アナログワイヤレスマイクロホン (アナログ) : 3 本、デジタルワイヤレスマイクロホン (デジタル) : 2 本の場合

グループ／チャンネル	使用例 (1)	使用例 (2)	使用例 (3)
B31	使用不可	アナログ／デジタル	アナログ
B32	アナログ／デジタル	使用不可	アナログ
B33	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル
B34	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル
B35	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル
B36	アナログ／デジタル	アナログ／デジタル	使用なし

## グループ／チャンネルの 設定一覧表

<同時使用できるグループ／チャンネルの一覧表>

運用	ワイヤレスマイクロホン 使用本数	チャンネル数選択の 設定 (※ 1)	選択したグループ	同時使用できるグループ／チャンネル
デジタルワイヤレス マイクシステム	1～5	10ch	A	BA1～BA5
			B	BB1～BB5
			C	BC1～BC5
			D	BD1～BD5
			E	BE1～BE5
			F	BF1～BF5
	6～10	10ch	A B	BA1～BA5、BB1～BB5
			C D	BC1～BC5、BD1～BD5
			E F	BE1～BE5、BF1～BF5
11～15	15ch	A D E	BA1～BA5、BD1～BD5、BE1～BE5	
		B C F	BB1～BB5、BC1～BC5、BF1～BF5	
アナログワイヤレス マイクシステムと併用	1～6	10ch (※ 2) /15ch	1	B11～B16
			2	B21～B26
			3	B31～B36
			4	B41～B46
			5	B51～B55
			6	B61

(※ 1) ワイヤレスマイクロホンとワイヤレスチューナーのチャンネル数選択の設定を同じにしてください。(※ 13 ページ、23 ページ)

(※ 2) チャンネル数選択の設定が「10ch」の場合、デジタルワイヤレスマイクロホンは B11、B12、B21、B22、B31、B32、B44、B45、B52、B53 は同時に使用できません。(※ 23 ページ)

ご注意：

- 上記以外のグループ／チャンネルで使用した場合、ノイズが発生する、音声が途切れる、受信できないなどの影響が  
でる可能性があります。

こんなときは

症状	チェックする箇所	処置	参照ページ
電源スイッチを“入”にしても電源が入らない。	電源プラグがコンセントから抜けていませんか？	電源プラグをコンセントに差し込んでください。	—
受信しない。 ( $\alpha / \beta$ の表示ランプが消灯している)	ワイヤレスマイクロホンとワイヤレスチューナーユニットのグループ/チャンネル番号は同じに設定されていますか？	ワイヤレスマイクロホンとワイヤレスチューナーユニットのグループとチャンネルを合わせてください。	13 ページ
	ワイヤレスマイクロホンの電池は消耗していませんか？ (電源ランプが点灯しないときは電池切れです)	ワイヤレスマイクロホンの電池を交換してください。 (ワイヤレスマイクロホンの取扱説明書参照)	—
受信しない。 ( $\alpha / \beta$ の表示ランプがオレンジ色に点灯する)	本機とワイヤレスマイクロホンは、同じチャンネル数選択に設定されていますか？	本機とワイヤレスマイクロホンを同じチャンネル数選択に合わせてください。	13 ページ
	セキュリティ機能を使用している場合、ワイヤレスマイクロホンとワイヤレスチューナーユニットは認証された組み合わせですか？	ワイヤレスマイクロホンとワイヤレスチューナーユニットを認証された組み合わせでご利用ください。	15 ページ
	同じグループ/チャンネルのアナログワイヤレスマイクロホンが使われていませんか？	アナログワイヤレスマイクロホンと併用する場合のグループ/チャンネルをご使用ください。	13 ページ 23 ページ 24 ページ
妨害電波がありませんか？	違うグループ/チャンネルをご使用ください。	13 ページ	—
音がでない。 ( $\alpha / \beta$ の表示ランプが点灯している)	ワイヤレスチューナーとその他の機器は正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	10 ページ
	本機とワイヤレスマイクロホンは、同じサブグループに設定されていますか？	本機とワイヤレスマイクロホンを同じサブグループに設定してください。	17 ページ
音が小さい。	ワイヤレスチューナーの背面の混合出力レベル切替スイッチは適正位置にありますか？	レベル切替スイッチを正しい位置にしてください。	5 ページ
	ワイヤレスチューナーユニットの音量調節は小さすぎませんか？	音量つまみを右に回して音量を大きくしてください。	4 ページ
	接続先のアンプやミキサーの音量調節は小さすぎませんか？	接続先のアンプやミキサーの音量を大きくしてください。	—
グループ/チャンネルが正しく表示されない。	動作モード設定スイッチが“エリアチェック”になっていませんか？	動作モード設定スイッチを「10ch」または「15ch」にしてください。	4 ページ 22 ページ
	表示が点滅していませんか？	電源を一度入れなおして表示を確認してください。変化がない場合は電源スイッチを切ってお買い上げの販売店またはサービス窓口にご相談ください。	—
	意味不明の表示をしていませんか？		—
雑音や異音がする。	ワイヤレスマイクロホンとスピーカーが近づきすぎてハウリングを起こしていませんか？	スピーカーからはなれて使用してください。	—
	近くでほかのワイヤレスマイクロホンを使用しているなどで混信を起こしていませんか？	グループ/チャンネルの設定を変更してください。あるいは、エリア設定スイッチを使用して混信を取り除いてください。	13 ページ 21 ページ
	ワイヤレスマイクロホンとワイヤレスアンテナの距離が近すぎませんか？ (3 m 以下になっている)	ワイヤレスアンテナからはなれて使用してください (ワイヤレスマイクロホンをワイヤレスアンテナから 3 m 以上はなしてください)。 グループ/チャンネルの設定を変更してください。 本機のエリア設定スイッチを“中”または“狭”に切り換えてください。	— 13 ページ 20 ページ
使用エリアが狭い。	ワイヤレスアンテナおよびアンテナケーブルが正しく接続されていますか？	接続を確認してください。	10 ページ
	ワイヤレスアンテナが金属物に近づいて設置されていませんか？	ワイヤレスアンテナを金属物からはなして設置してください。	—
	ワイヤレスマイクロホンとワイヤレスアンテナの間に金属やコンクリートの壁がありませんか？	ワイヤレスアンテナの見える位置に移動して使用してください。	—
	ワイヤレスチューナーのエリア設定スイッチが“狭”になっていませんか？	エリア設定スイッチを“広”に設定してください。	20 ページ
	ワイヤレスアンテナのエリア設定スイッチが“狭”になっていませんか？		—

## 保証とアフターサービスについて

### 保証書の記載内容で確認と保存について

この商品には保証書を別途添付しております。保証書はお買い上げ販売店でお渡ししますので所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

### 保証期間について

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。なお、修理保証以外の補償はいたしかねます。故障その他による営業上の機会損失は補償致しません。その他詳細は保証書をご覧ください。

### 保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

### サービス窓口

- 下記 URL をご覧ください。  
<http://www3.jvckenwood.com/pro/service.html>
- カスタマーサポートセンター  
(045-939-7320)

### サービスについてのお問い合わせ先

修理・保守・設置工事については、お買い上げ販売店または最寄りのサービス窓口にご相談ください。

### 修理を依頼されるときは

お買い上げ販売店、またはサービス窓口に必要なことをお知らせください。

品名	: デジタルワイヤレスチューナー
型名	: WT-1002D、WT-1004D
お買い上げ日	:
故障の状況	: 故障の状態をできるだけ具体的に
ご住所	:
お名前	:
電話番号	:

## 商品廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

# 仕様

※ 本機の仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。

型名	WT-1002D	WT-1004D
受信周波数	806.125 MHz ~ 809.750 MHz 間の 30 波から 1 波を選択 (最大 2 波)	806.125 MHz ~ 809.750 MHz 間の 30 波から 2 波を選択 (最大 4 波)
受信方式	ダイバシティ・ダブルスーパーヘテロダイン方式	
受信感度	24 dB $\mu$ V (終端、ビットエラーレート 1E-5 以下)	
周波数特性	50 Hz ~ 15 kHz	
ワイヤレスアンテナ入力	$\alpha \cdot \beta$ 各 2 入力 75 $\Omega$ 不平衡、F 型 (C-15 型相当) コネクタ	
ワイヤレスアンテナ供給電源	最大 40 mA / 各アンテナ端子	
ワイヤレスアンテナ感度	各アンテナ 3 段階切換 (広、中、狭)	
チューナー出力	2 出力 $\phi$ 6.3 複式フォンジャック - 10 dBs、5 k $\Omega$ 不平衡	4 出力 $\phi$ 6.3 複式フォンジャック - 10 dBs、5 k $\Omega$ 不平衡
混合出力	1 出力 $\phi$ 6.3 複式フォンジャック - 10 dBs / -50 dBs 切換、5 k $\Omega$ 不平衡	
混合入力	1 入力 $\phi$ 6.3 複式フォンジャック - 10 dBs、5 k $\Omega$ 不平衡	
許容動作温度	0 $^{\circ}$ C ~ 40 $^{\circ}$ C	
許容動作湿度	30 % RH ~ 80 % RH	
電源	AC 100 V 50 Hz / 60 Hz	
消費電力	13 W	20 W
質量	約 3 kg	約 3.2 kg
外形寸法	420 mm $\times$ 44 mm $\times$ 280 mm (突起部含まず) (幅 $\times$ 高さ $\times$ 奥行き)	
仕上げ	黒色焼付塗装 (マンセル N-1 近似)	
内蔵ワイヤレスチューナーユニット数	1 台	2 台
増設可能ワイヤレスチューナーユニット数	1 台 (合計 2 台)	2 台 (合計 4 台)
付属品・添付物	取扱説明書 ..... 1 保証書 ..... 1 安全上のご注意 ..... 1 フット ..... 4	
別売関連商品	デジタルワイヤレスチューナーユニット : WT-UD1003D ワイヤレスアンテナ : WT-Q830、WT-Q840、WT-Q850、WT-Q860 ラックマウント金具 : PS-RU11	
外形寸法図 (単位 mm)		

JVCケンウッド  
カスタマーサポートセンター

固定電話  0120-2727-87

携帯電話・PHS  0570-010-114

一部のIP電話など 045-450-8950

FAX 045-450-2308

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ホームページ <http://www3.jvckenwood.com/>

株式会社 JVCケンウッド・公共産業システム

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12